

現状と課題

■ 主体的な健康づくり

- ・ 急速な高齢化と生活様式や社会環境の変化に伴って、がん、循環器病、糖尿病などの生活習慣病の増加や、心身機能の低下による閉じこもりや介護を要する高齢者の増加などが問題となっている。(図-1)
- ・ 市民一人ひとりが「健康は守るもの」から「健康はつくるもの」へと発想を転換し、食生活、運動、飲酒、喫煙、ストレスなどの生活習慣の改善など、健康づくりに主体的に取り組むことが求められている。(図-2, 図-3)
- ・ また、高齢になっても生きいきとした生活を続けるために、地域活動へ参加するなど、外出機会を増やすことが大切である。(図-4)

■ 地域における健康づくり

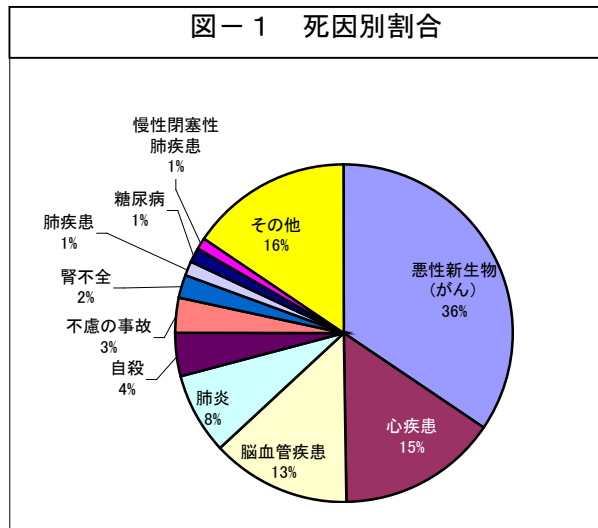
- ・ 市民の健康づくりにおいては、一人ひとりの努力はもとより、身近な地域の活動が大きな役割を担っている。
- ・ 札幌市では、「地域組織の育成」「人材養成」「健康づくりの普及啓発」の3つを柱として地域の健康づくりに取り組んでいる。活発に活動を行なっている地域がある一方、まだ地域全体に活動が広がっていない状況もある。
- ・ 市民の自主性を基本とし、市民と行政が連携・協働して、健康づくりを地域に定着・発展させていくことが必要となっている。

■ 健康づくりを支える社会環境

- ・ 幼年期から青年期にかけて、保育所・幼稚園・学校は多くの時間を過ごす場であり、集団生活を通して社会性や望ましい生活習慣を身につける場である。
- ・ 職場は、勤労者にとって長い時間を過ごす場であり、勤労者の健康づくりに大きな影響を与える。
- ・ 企業や商店は、健康に関連する商品やサービスなどを通じて、市民が健康的な生活習慣を選択することができるよう、健康情報の発信者であることが求められている。
- ・ それぞれの特性や機能を生かし、市民の健康づくりを支える活動や環境整備に取り組んでいくことが期待されている。

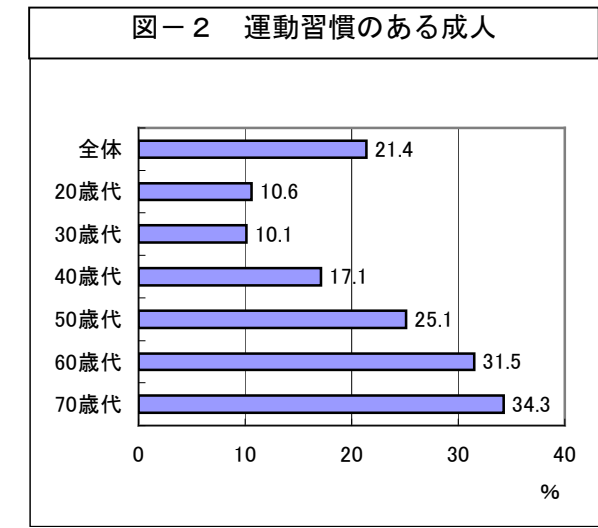
関連データ

図-1 死因別割合



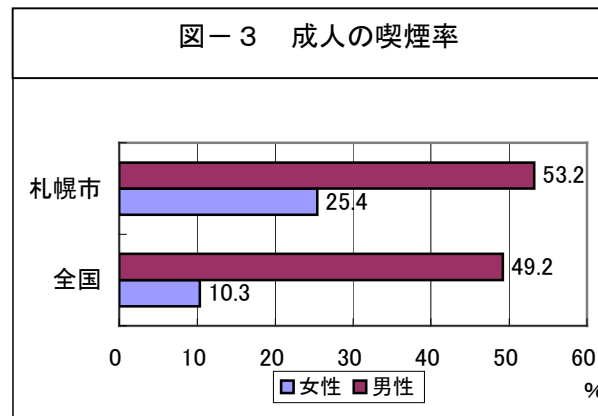
「札幌市衛生年報」(平成12年)

図-2 運動習慣のある成人



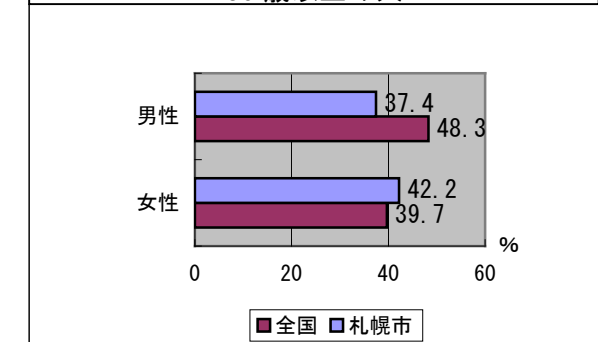
「札幌市健康づくり基本計画に関する市民意識調査」

図-3 成人の喫煙率



「札幌市健康づくり基本計画に関する市民意識調査」, 「国民栄養調査」

図-4 地域活動に参加している60歳以上の人



「札幌市健康づくり基本計画に関する市民意識調査」